

「新北海道科学技術振興戦略」における主な取組(H25～27年度)(案)

1 研究開発の充実及び研究成果の移転等の促進

(1) 道内大学等を核とした研究開発拠点の形成

時代の要請に対応した研究シーズの創出に向け、大学等を核にした研究開発拠点形成を推進してきました。

- 北大リサーチ&ビジネスパーク構想の推進による研究開発機能の集積の促進
 - ・地域イノベーション戦略支援プログラム（国際競争力強化地域）の推進
「さっぽろヘルスイノベーション ‘Smart-H’」(H24～28)
 - ・センター・オブ・イノベーション（COI）プログラムの推進
「食と健康の達人」拠点の推進（H27～H33）
 - ・北大フード&メディカルイノベーション国際拠点（FMI）の供用開始（H27.4）
 - ・北大に北極域研究センターを開設（H27.4）
国の「北極域研究推進プロジェクト(ArCsプロジェクト)」に採択（H27～H31）
- 新事業、新産業の創出に向けた先端分野における研究開発の促進
 - ・先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラムの推進
「未来創薬・医療イノベーション拠点形成」(H18～H27)
 - ・橋渡し研究加速ネットワークプログラムの推進
「オール北海道先進医学・医療拠点形成」(H24～H28)
- 航空宇宙に関する研究開発の推進

(2) 北海道の特性を活かした研究開発の推進

本道経済の自立化・活性化のため、北海道が有する独自性や優位性、これまで蓄積してきた知識や技術を活かした研究開発を推進してきました。

- バイオ資源等を活かした機能性食品、創薬、環境・エネルギー等に係る研究開発の推進
 - ・ノーステック財団を通じた研究開発支援
イノベーション創出研究支援事業(H25:17件、H26:19件、H27:18件)
- 道総研における事業化・実用化につながる研究開発の重点的推進

(3) 研究成果の企業への移転及び事業化・実用化の推進

大学等の研究成果の社会への還元を進めるため、企業への研究成果の移転を促進するとともに、事業化・実用化を推進してきました。

- 道民や企業等のニーズに対応した研究開発等の推進
- 大学等の知的資源を活用した事業化・実用化の推進
 - ・北大ビジネス・スプリング入居企業に対する支援
 - ・ノーステック財団を通じた研究開発支援(H25:17件、H26:19件、H27:18件) (再)
- 産学官及び金融機関等の多様なネットワークの形成
 - ・全道産学官ネットワーク推進協議会の開催(毎年度、H16～)
 - ・北海道コーディネータ・ネットワーク・フォーラムの開催(毎年度、H20～)
 - ・産学官及び金融機関からなる食クラスター活動の推進

・産学官の共同研究の件数 H25 951件 → H29 1,100件	H25 951件	H26 1,007件	H27 1,133件
・バイオ産業の売上高 H23 510億円 → H29 1,000億円	H25 549億円	H26 595億円	H27 631億円
・バイオ産業の従業員数 H23 1,574人 → H29 1,800人	H25 1,757人	H26 2,096人	H27 2,214人

2 道における研究開発等の推進

本道の様々な政策課題の解決のため、道立試験研究機関や道総研における研究開発、コーディネイト機能の充実、技術移転の促進等の取組を推進してきました。

- 道総研の研究開発機能の強化
 - ・研究職員の大学、公設試験研究機関への派遣
- 道総研の分野横断型研究開発の推進
 - ・総合相談窓口の設置による各研究本部と連携した相談体制の構築
- 道総研のコーディネート機能、支援機能の強化
- 特許等の活用の推進

・道総研における外部資金による研究課題数 H25 377件 → H29 390件	H25 377件	H26 371件	H27 378件
・道総研における知的財産権の実施許諾件数 H25 354件 → H29 360件	H25 354件	H26 370件	H27 374件

3 産学官金等の協働の推進

地域が一体となって、技術シーズの開発から事業化・実用化まで一貫した研究開発推進体制の整備を進めるために、産学官金等の協働を推進してきました。

- 産学官や金融機関等の協働の促進
 - ・全道産学官ネットワーク推進協議会の開催（再）
 - ・北海道コーディネータ・ネットワーク・フォーラムの開催(再)
- 支援機関等の機能の充実
 - ・ノーステック財団による研究開発支援事業に対する支援
 - ・リサーチ&ビジネスパーク札幌大通サテライトの運営参画
 - ・産学官連携支援協議会による産学官連携フォーラム開催やセミナー等の実施
 - ・地域の産業支援機関の行う企業への技術支援活動等を支援

・産学官の共同研究の件数	H25	H26	H27
H25 951件 → H29 1,100件	951件	1,007件	1,133件

4 知的財産の創造、保護及び活用

新事業、新産業の創出に結びつく知的財産を戦略的に創造・保護・活用し、道内企業等の産業競争力を強化するため、産学官金の連携による様々な取組を推進してきました。

- ワンストップ相談機能の活用支援
 - 北海道知的財産情報センター知財総合支援窓口サテライト設置地域 8地域
(札幌、函館、帯広、北見、旭川、釧路、苫小牧、室蘭)
- 開放特許の活用促進
- 地域団体商標制度の活用促進
- 冒認出願対策等の推進
 - ・商標監視調査の実施
 - ・韓国における「TOKACHI」の商標出願に対する異議申立(H27.4 拒絶決定)
 - ・冒認対策支援情報ガイドの作成(H26)

・地域団体商標:新規出願数	H25	H26	H27
H23 44件 → H29 56件	44件	46件	51件
・特許流通サポーターによる特許流通相談件数	H25	H26	H27
H23 605件 → H29 630件	508件	720件	739件
・道内大学等における特許等の実施許諾数（譲渡含む）	H25	H26	H27
H23 291件 → H29 330件	521件	511件	*

(注) *は現在未公表

5 科学技術を支える人材の育成・確保及び科学技術コミュニケーション活動の促進

本道の科学技術を支え、国内外で活躍することが期待される優れた人材の育成・確保に努めるとともに、道民と科学技術に携わる者とのコミュニケーションを促進してきました。

(1) 科学技術を支える人材の育成・確保

- 道総研の研究職員の資質の向上
- 児童、生徒の科学への関心を高めるための理数教育等の充実
 - ・サイエンスカーを活用した移動理科教室の開催（体験児童・生徒）

H25	445名	H26	521名	H27	530名
-----	------	-----	------	-----	------

- ・道立高等技術専門学院による、小中学生を対象にしたものづくり体験会

H25	9回945名	H26	12回1,115名	H27	12回1,484名
-----	--------	-----	-----------	-----	-----------

- ・修学旅行や研修旅行などの機会を活用した中学生への職業体験講座の実施

H25	337講座3,178名	H26	322講座3,178名	H27	323講座3,263名
-----	-------------	-----	-------------	-----	-------------

(2) 科学技術コミュニケーション活動の促進

- 関係団体等との連携による道民の科学技術に触れ合う機会の提供

	H25	H26	H27
サイエンスパーク	850名	1,450名	1,200名
親と子の理科教室	58組117名	87組177名	83組167名
中学生の化学実験教室	68名	44名	55名
道が後援している科学の祭典等	35,683名	36,484名	37,378名

- 青少年の創造性や科学する心を育む取組の促進（北海道知事賞の授与等）

- ・北海道地方発明表彰
- ・青少年科学技術振興作品展
- ・日本学生科学賞

- 優れた研究等の功績のあった個人、団体等の表彰

	H25	H26	H27
北海道科学技術賞の贈呈	2名1団体	1名	3名
北海道科学技術奨励賞の贈呈	5名	5名	5名

・道内大学卒業者の道内就職率（理工系学部）（年度） H23 43.9% → H29 45.0%	H25 43.1%	H26 44.6%	H27 43.0%
・「サイエンスパーク」参加児童生徒数 H19～H23 3,800人(延べ)→H25～H29 4,000人(延べ)	H25 850人	H26 2,300人	H27 3,500人
・「青少年のための科学の祭典」開催件数 H23 41件 → H29 50件	H25 24件	H26 29件	H27 28件